

町報

2002
12月

No.381

こうふ

目次

● 国民文化祭	2~7
● 町の話	8~9
● スポーツ結果	10
● 図書館おすめの本	11
● ゴミの分別収集	12
● 年末の交通安全県民運動	13
● 情報コーナー	14~15
● 行事あれこれ	16
● 人の動きほか	17
● ヤング・チャレンジブック	18



第28回江府町人権・同和教育研究集会開催

タレント かつら **桂** こ きん じ **小金治**

「人の心に花一輪」

夢フェスタとっとり

第17回国民文化祭・とっとり2002

「ふるさと ふれあい 夢づくり」をテーマに、十月十二日～十一月四日までの二十四日間、鳥取県内の市町村において、音楽・演劇等色々な国民文化事業が開催されました。

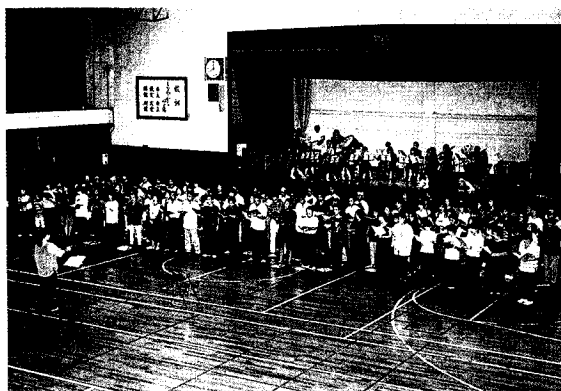
江府町では、十月二十八日～十一月四日までの十日間、江府町総合体育館を中心に開催され、「水の文化フェスティバル」として、「生命はくくむ水とブナの森からのメッセージ」をテーマに文化活動等を発表いたしました。

この「水の文化フェスティバル」を開催するにあたり、江府町は江（川）の集まる府（町）として、「水」とは深く関わりを持っていること、二十一世紀は「水」の時代ともいわれているように、環境問題を身近なこととして考える時代であることを踏まえ、江府町の恵まれた自然を後世に引き継ぎ、発展させるために「水」の文化を見つめ直す機会となりました。

100人コーラス・ハンドベル 練習風景

この度の「水の文化フェスティバル」一番のメインは、100人コーラスで、4月に町内の皆様に募集の呼びかけをし113人のコーラスメンバーが集まりました。4月27日の練習から本番の10月26日・11月2日までの練習回数は13回を数え、皆様の協力があって今回の「100人コーラス」が一致協力して目的を達成できたと思います。

ハンドベルは、10月26日の「江府町水の音楽祭」と倉吉市の国文際「合唱祭」にオープニングを飾る演奏に出演依頼を受け、4月から9月までは月2回、9月からは、毎週1回の猛練習で夜遅くまで練習しました。このハンドベルのメンバーは、公民館のハンドベル講座のメンバーが中心になって日頃の講座の腕前を披露しました。これからも頑張ってください。江府町公民館も応援いたします。



100人コーラス最後の練習（江府中体育館）



原礼子先生によるハンドベル指導

「水の文化フェスティバル」開会セレモニー (10月26日)

10月26日午前6時、開会式会場となるエバーランド奥大山で雨天に関する協議会を関係者で行いましたが、天気予報は曇りのち雨、現地に立ち大山を見ると晴れてくっきり見えるではないか！これなら4時頃まで雨は降らないのではないかとということで予定通り全員一致で「開会セレモニー・江府町水の音楽祭」をエバーランド奥大山で実施する方向で決定しました。

10時からの開会セレモニーでは、江府町実行委員会会長の福田町長が「21世紀は水の時代ともいわれている。生命はぐくむ緑ゆたかな自然を維持発展させるために水の文化を見つめ直し、新しい文化をどのように創造していくのかいっしょに考えていきたい」と挨拶があり、10日間の「水の文化フェスティバル」が始まりました。

10時30分からの「水辺のコンサート」は、井上智恵さん・菊池栄子さんによるフルート演奏が行われ澄み切った音色が奥大山の隅々まで響き渡り一同感激いたしました。

午後2時開会の「江府町水の音楽祭」は、天気予報が的中し雨が強くなり会場を江府町総合体育館に変更しました。舞台裏の役員は機材の搬出から出演者の移動及び町内住民の防災無線など目が回るほどの忙しさでした。出演者のリハーサルも予定では、エバーランド奥大山でしたがこの雨のため、江府町総合体育館になり予定通りにはいかなく、小学生(292人)・江府中プラスバンド(25人)が第一便で体育館に向かい、100人コーラス(113人)・ハンドベル(18人)・アイリス合唱(20人)が第2便で体育館に向かい到着後リハーサルを実施し、本番の2時を迎え明倫小学校の「太鼓」・俣野小学校の「銭太鼓」・米沢小学校の「神楽」・江尾小学校の「トランペット鼓隊」と江府町連合小学校総合音楽を先陣に開幕しました。2番目にフルート演奏(井上智恵・菊池栄子)「きらきら星変奏曲・カルメン組曲」が行われました。3番目にピアノ独奏(木下忍)「バイエル74番他」が披露されました。4番目にハンドベル演奏(チロルハンドベル)「森の水車他」の演奏が行われました。5番目に合唱(アイリス合唱団)「水よはよはよ田んぼにたまれ」他の合唱が行われました。6番目にプラスバンド演奏(江府中学校吹奏学部)「あなたのとりこ」を演奏しました。7番目に合唱(100人コーラス)「大地讃頌」を113人のメンバーで合唱致しました。最後に出演者全員による「ふるさと」を合唱しました。それぞれが「水、森、大地」の大切さに思いを馳せながらの発表でした。



フルートの音色がエバーランドに響きました



力強い明倫小の太鼓

「俣野川溪谷ツアー」 (10月27日・30日)

溪谷ツアーは10月27日41名、30日46名の参加者で俣野川をたどりながら、水と生活との関わりや、流域の自然環境について体感していただきました。参加者からは「近くにこんなすばらしい所があるなんて知らなかった、是非もう一度家族で来ます」と好評でした。

【ツアー内容】

(俣野川発電所) 岡山県新庄村の土用ダムより水を引き、標高差500mの落差を利用して発電する西日本最大級の揚水式発電所です。

地下発電所の広さに感動し、120万kwの機械に圧倒され発電中の騒音にびっくりしていました。



地下発電所の中で説明を受ける

(かまこしき溪谷) 俣野川の中流域・約600mの間に、急流や滝が連なる溪谷美の景勝地です。

俣野沢田橋から助沢のかまこしき駐車場までの1時間30分を自然・植物等の説明を聞きながらの自然探索を満喫して頂きました。



かまこしき溪谷付近での説明

(下蚊屋ダム) このダムは、大山山麓の総合農地開発事業に伴う水資源利用を目的として建設された農用ダムです。

担当者の説明でパイプラインにより32kmの距離を隔てた中山町まで農業用水が送られる話を真剣に聞き入っていました。



寒い中での学習

(鏡ヶ成高原) 鏡ヶ成は大山山系の南に位置し、周田を烏ヶ山・象山・擬宝珠山に囲まれた標高900mの盆地状に開けた高原で俣野川の源流となっています。

下蚊屋ダムまでは、天候もますますでしたが鏡ヶ成に到着した時は、雪と風で荒れ模様の天候でしたが、参加者の学習意欲は衰えず、自然学習での講師の先生の話に耳を傾けていました。



ボランティアの協力で皆安心

「水と生命のコンサート」 (11月2日)

11月2日午前8時30分、江府町総合体育館に役員スタッフが到着すると、すでに整理券を持って待っている人が何人かいました。「何処から来られましたか?」と聞けば、静岡県から今朝江府町に到着し、歩いて体育館へ来たとのこと。櫻井哲夫のファンで日本全国都合がつけば何処へでも出かける「追っかけファン」とのことです。

今回の櫻井哲夫プロデュース「水の生命のコンサート」スペシャルゲスト岩崎宏美のコンサートに観覧された人は、宮城県・東京都・神奈川県・静岡県・京都府・大阪府・広島県・島根県・福岡県・鳥取県の1都2府7県の皆さんがそれぞれのアーティスト(音楽家)の曲を聞くために早朝から並んでいました。

開場となる時間は午後1時、それまでは江府町の特産品売場で探索しながら開場時間までを過ごして頂きま

した。

開演時間午後1時30分、待ちに待った「水と生命のコンサート」が開始になりました。

最初に櫻井哲夫(ベースギター)・塩谷哲(ピアノ)・大儀見元(ドラム)による演奏で始まり、続いてスペシャルゲストの岩崎宏美さんによる歌が披露されました。コンサート終了後に観覧者に感想を聞いたら、櫻井さんのベースギターによるソロ演奏に関心していました。「このソロ演奏を聞いただけでもコンサートに来たか良かった」との感想を述べておられ、さすが全国から追っかけファンが来るだけのことがあると思えました。

最終的に観覧者が1,000人を超える大盛況の内にコンサートを終了することができました。



全員で記念の写真「ハイ、ポーズ」



櫻井さんのソロ演奏



大山をバックの岩崎宏美さん

「水を考えるシンポジウム」 (11月3日)

ブレ国文祭を含めれば一年半以上の月日をかけ準備した「水の文化フェスティバル」 水を考えるシンポジウムは予定通り11月3日(日)に当日を迎える事が出来ました。あいにくの雨、しかもどしゃ降りの悪天候に加え、予想外の寒さの中、果たして何人の観客が最後のシンポジウムまで残ってくださるのか……スタッフの関心はその一点にありました。

前夜遅くまでチェックした各小学校発表のスライド映像も無事終了し、保育園児の太鼓演奏はみごとな練習成果で、先生の合図に合わせピタッとバチが揃うのには感動を覚える程でした。続いてJA女性会による「田植唄踊り」。この度、新調された張り子の牛があまりにも立派で大きく、舞台袖の階段を上がれるかとヒヤヒヤしました。バリ(牛糞)に見立てた袋入りのアンパンも首尾良く観客に向かってまかれ、大爆笑となりました。

つかの間の昼食時間に、小学生や保育園児の家族の方が次々と席を去り、残った人影はほんの数人。用意し

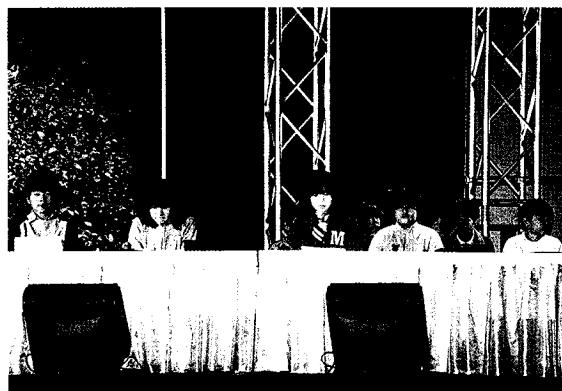
た五百席の中にあっては、パラパラも同然でした。(……どうしよう)(遠路、はるばる前日入りして下さった講師先生やパネラーの皆さんに申し訳が立たない)一瞬、頭の中が真白になるような不安の中、やがてザワザワとにぎやかな話し声と共に一団の人々が入場、着席。その後も、三々五々と入場者が続き、午後のプログラム・基調講演「水と緑の国・日本」が始まる頃には7~8割の席が埋まりました。その後の集計で、最終的には午前・午後の延べ人数は1,200人(出演者も含む)となり、4時のシンポジウム終了まで多勢の方が残って下さいました。

冷たい雨の中、一日中、外のテントで豚汁やコーヒーをサービスして下さった方、カサもささず濡れながら、交通整理をして下さった方、各々の持ち場で国文祭を支えた人々を全部紹介することは不可能ですが、それら全ての皆さんの支えで成功した国文祭でした。百人コーラスで、慣れないダミ声(私のことです)を張り上げながら、けっこう皆との一体感に酔ったりして、大変だけど、皆で何かを作り上げて行くと悪くないな……と思ったりもしました。全く文化は一日にして成らずですが、チリも積もれば山と成る(?)で、とにかく小さな半歩、一步を継続しつつ文化の灯を守り育てて行けたらと改めて思いました。

K・U



園児のかわいいバチさばき



小学生の発表内容は大人も感動しました。



基調講演の富山和子先生